

2024年9月24日

ニュースリリース

ジェットスター・ジャパン株式会社

2024年度決算について

- 2024年6月期は2019年度以来の黒字を達成
- 当期純利益は5億700万円に増加
- 営業収入は過去最高の707億7,200万円
- 平均搭乗率は前年度比7.3ポイント増の86.4%

ジェットスター・ジャパン株式会社(本社:千葉県成田市、代表取締役社長:片岡優)は、2024年6月期決算(2023年7月1日~2024年6月30日)を取りまとめましたのでお知らせします。

2024年6月期(以下:当期)も引き続き円安や燃油高の影響を受けましたが、5億700万円の純利益を計上し、5年ぶりの黒字を達成しました。営業収入は前年比40.0%増の707億7,200万円で過去最高となり、営業損失は前年より大幅に改善され13億3,000万円(前年は76億5,100万円の損失)となりました。

当期の総搭乗者数は、566.2万人(前年比22.6%増)、年間平均搭乗率は86.4%(前年は79.1%)と堅調に推移し、定時運航率は81.1%(前年は87.0%)でした。

ジェットスター・ジャパン 代表取締役社長 片岡優は次のようにコメントしています。

「当期も円安や燃油高などさまざまなチャレンジに直面しましたが、事業の拡大に注力し続けた結果、2019年度以来となる純利益黒字を達成しました。ご利用いただきました多くのお客さま、事業をご支援くださいました関係各所の皆さまに心よりお礼を申し上げます」

「当期の大きな取り組みとして、成田=旭川および福岡=新千歳路線の新規就航により国内線ネットワークの拡充を再開しました。成田=旭川路線は当社にとって4年4か月ぶりの新規路線で、両空港を結ぶ唯一の直行便です。国際線においても引き続き旺盛な訪日需要に応えるべく、成田=上海(浦東)および関西=台北(桃園)の両路線を再開したほか、成田=台北を1日最大2便化することで同路線の提供座席数を増やし、お客さまの利便性を向上しました」

「機材については、エアバス A321LR を 3 機体制とし国内の主要幹線における提供座席数の増加や運航品質の強化を図ったほか、旺盛なインバウンド需要に対応するため国際線の運航にも投入しました。燃費効率やエンジンの静粛性にも優れた最新鋭のエアバス A321LR は、その利便性と快適性でお客さまにご好評をいただいております」



「また、関西空港でのより効率的なオペレーションを実施するべく、今年の春には関西空港支店チームを立ち上げ、地上(グランドハンドリング)業務を自営化しました」

「当期はまた、お客さまに気軽な空の旅を再び思い出していただきたく、2023 年春から一年をかけて国内就航地への『巡業の旅』でお客さまとの交流を図り、認知度の向上を図りました」

「昨年秋には、当社の SDGs プログラム『StarTrees』を通じて、お客さまや社員から寄せられた募金で、社員ボランティアによる初めての植樹活動を北海道旭川市近郊の雨竜郡幌加内町において実施しました。植林した森は、お客さまの投票により、ジェットスターのマスコットにちなんで『ジェット太の森』と命名。『ジェット太の森』を少しずつ日本各地に広げる活動を通じて、より多くの方に地域の森林環境やその環境保全の重要性における理解を深めるきっかけをつくってまいります。また、当社の路線網を活かして、大都市圏と地方間の交流人口を増加することで地域経済の活性化に貢献するとともに、地域一体となった持続可能な社会の実現を目指して今後も取り組む所存です」

ジェットスター・ジャパンは今後も路線網の充実・拡大を図り、各地域間の交流や観光の活性化に貢献できるよう、お客さまの安全・安心を第一に、低運賃でより気軽な空の旅を提供してまいります。

【ジェットスター・ジャパンについて】

「日本の空、世界の空を、もっと身近に。」をビジョンとして掲げ、2012 年 7 月より日本国内線、2015 年 2 月からは国際線の運航を開始しました。現在、国内 16 都市・海外 3 都市に就航し、国内線 19 路線・国際線 5 路線を運航中。就航から累計 5,000 万人以上のお客さまにご利用いただいています。ジェットスター・ジャパンには豪カンタスグループ、日本航空株式会社、東京センチュリー株式会社が出資しています。

<https://www.jetstar.com/jp/ja/home>